

名古屋大学教育学部 2008年度 後期  
教育方法学講義I  
- 教育方法概論 -

第6回 講義資料 W

担当 柴田好章 (教育方法学・准教授)

## 授業者にとって大切なことは？ (2) —教材研究—

テキスト関連箇所 1, 4, 5, 6, 7, 12, 13章

### 1 前回の授業から —教材研究の重要性—

○ 教材研究には、すでにある教材の意味を解釈して、実際の授業に位置づけていく作業と、ある素材に教育的な意義を見いだして、教材を開発していく作業の両面がある。すなわち、教材解釈と、教材研究。

○ この2つは、〈使う〉—〈作る〉、〈ある〉—〈なる〉という点で大きく異なるが、ともに、素材の中に教育的意味を発見（あるいは再発見）する営みである点で共通している。

教材開発の例：堀川を使った環境教育（堀川（教材）は、環境教育の教材のために存在するのでない）

教材利用と開発の接点：教材利用者も、教材開発者の視点にたって、素材（教材）にある

○ 教材には、教材を教える・学ぶという直接的な側面と、教材で（あるいは教材を通して教える・学ぶという媒介的側面という2重性を有している。

○ 概念的な知識、手続き的な知識、技能を有機的に関連させられるように配慮する。

〈よい教材の条件〉

- 1 見えないものが見える・・・標本, モデル
- 2 操作できるもの・・・体験, 実験, シミュレーション
- 3 大きいもの
- 4 長いもの
- 5 具体と典型

具体的な「もの」でありかつ、何らかの教育的意味を代表した典型であること

- 6 直観がはたらくもの

生き生きとした感性を伴うもの 学びのリアリティ, 実感

課題>> 例を考えてみよう

## 2 地域に根ざした教育 ー地域教材の活用ー

- 地域にある様々な、〈ひと〉、〈もの〉、〈こと〉 ……教材の宝庫としての地域

わかりやすい（取り上げやすい）教材

… 伝統行事、伝統工芸、地場産業、名所、文化財、歴史的人物、地域人材

どこにでもある地域教材

… 他と違っていなければいけないのではない。といって、距離が近いだけで身近ではない。

- 第1章 P16 宮崎小学校の紹介

愛知県額田郡額田町立宮崎小学校（当時） 現在は、\_\_\_\_\_立宮崎小学校

名大との研究協力 \_\_\_\_\_年より 各学年\_\_\_\_\_学級（現在は、\_\_\_\_\_）

宮崎小学校の研究の力点 \_\_\_\_\_ と \_\_\_\_\_の究明

\_\_\_\_\_をもつ \_\_\_\_\_を \_\_\_\_\_

地域社会の \_\_\_\_\_の中で発達し、その発達に支えられて子どもの \_\_\_\_\_が実現

- 宮崎小学校の地域教材

「お茶づくり」、「林業」、「猪垣」、「愛鳥」、「野生動物保護（ムササビ）、「自然観察林」、「米作り」、

- 子どもの作文から 想像と個性

ぼくには、おじさんの汗がぴかぴかひかっているところがはっきりする見えるような気がする。

想像そのものが個性ではなく、想像が子どもの発言や作文や作品等に毛tじつして、そこに個性が実現される

- P17 東郷東小学校、新城小学校の事例

山野や田畑や動植物のようす

人間と自然との深い繋がり 端的に言えば、人間を含めた自然的存在と人間とのリズムの共鳴

山に働く人 「\_\_\_\_\_」 子どもたち 「\_\_\_\_\_」

人間性の基底のレベル

- 4章、5章 「猪垣」の授業 6章 米作りの授業 7章 池づくり、地域歴史教材の授業  
12章 音楽的表現（想像的思考） 13章 社会科問題解決学習（伝統工芸）